



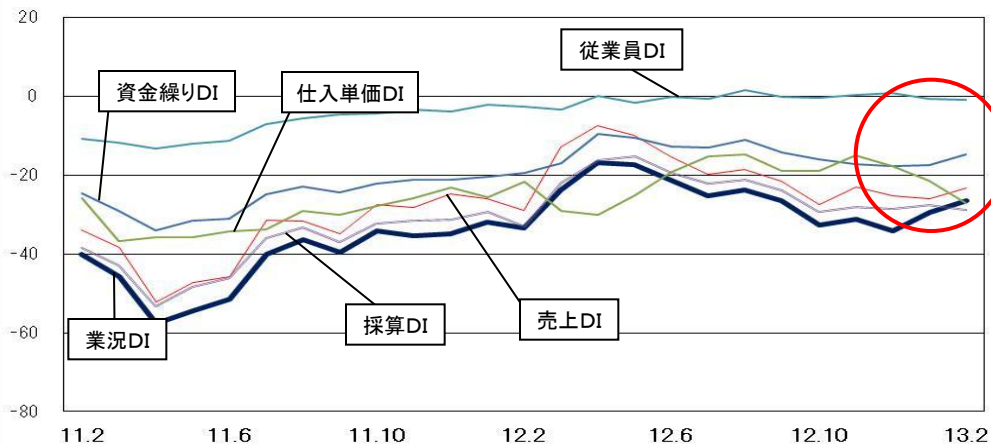
業況DIは、改善続く。先行きも景気回復への期待感が大きい

ポイント

▶2月の全産業合計の業況DIは、▲26.4と、前月から+3.2ポイントの改善。政府の金融・財政政策や円安・株高に伴う景気回復への期待感が一層高まっているほか、企業の生産活動や個人消費にも明るさが出始めている。他方、急速な円安進行に伴う燃料(原油、ガス)・原材料の価格上昇により、収益が圧迫されている企業は広範に及んでいる。足元では、景気回復の実感に乏しく、やや期待先行の状況が続いている

▶先行きについては、先行き見通しDIが▲13.0(今月比+13.4ポイント)と、大幅に改善する見込み。燃料や原材料価格、電力料金の上昇などを懸念する声はあるものの、円安・株高による企業の業績改善や個人消費の持ち直し、政府による経済対策への期待感は一層大きくなっている

LOBO全産業合計の各DIの推移(2011年2月以降)

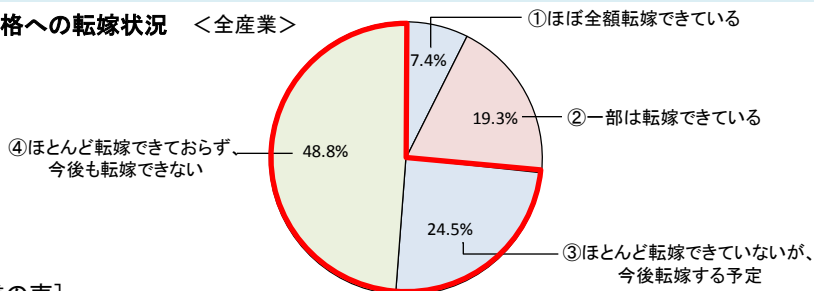


※調査期間(2月14日~20日)の為替水準:1ドル=92円後半~94円前半で推移

円安進行に伴う仕入価格上昇の経営への影響

▶このところの原材料等の仕入価格上昇分を自社の販売価格に「ほぼ全額転嫁できている」とする企業(全産業)は7.4%に止まる。一方、「ほとんど転嫁できていない」とする企業(全産業)は73.3%(③+④)に上る

◆販売価格への転嫁状況 <全産業>



▶1ドル=100円前後まで円安が進んだ場合、原材料等の仕入価格上昇の影響がある企業(全産業)は65.5%。そのうち、業績が悪化する見込みの企業(全産業)は46.6%。一方、仕入価格の上昇等の影響はあるものの、輸出の増加等により業績が改善する見込みの企業(全産業)は5.6%に止まる

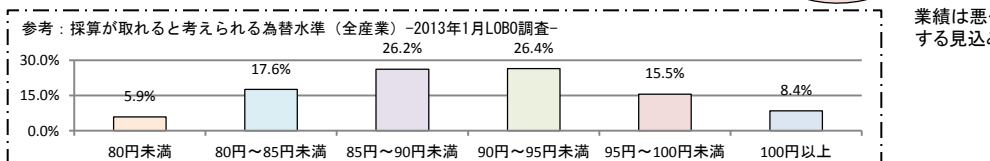
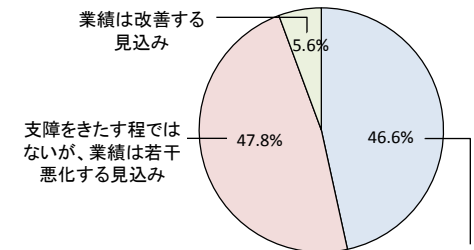
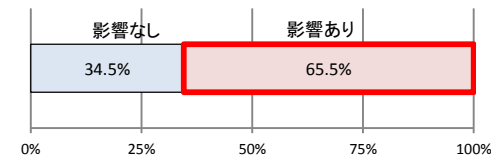
▶円安による輸出増等の好影響よりも、仕入価格の上昇が経営に悪影響を及ぼすとする企業の方が多。中小企業の多くが、為替について適切な水準で安定的に推移することを望んでいる

1ドル=100円前後まで円安が進んだ場合

◆原材料等の仕入価格上昇の業績への影響

※影響あり(65.5%)の企業が対象 <全産業>

◆円安進行に伴う仕入価格上昇の影響 <全産業>



参考:採算が取れると考えられる為替水準(全産業)-2013年1月LOBO調査-

業績は悪化する見込み

[中小企業の声]

- ▶為替の影響もあり鉄骨の仕入値が上昇。発注者の理解が得られず販売価格には転嫁できない(帯広 農用機械製造業)
- ▶売上は好転しているものの、燃料費や電力料金の上昇により負担も増している(村上 旅館業)
- ▶円安による仕入価格の高騰により採算が悪化。輸入品中心の商品構成から、国内品を増やす等の見直しが必要(海老名 自転車卸・小売業)
- ▶仕入値が上昇しているが販売価格に転嫁できない。さらに円安が進むと経営が厳しい(高知 木製品製造業)
- ▶燃料費の上昇でコスト負担が増えているが、運賃は上げられない(熊本 運送業)